

北足立北部退職校長会 会員だより

第 46 号

発行責任者

井 関 由 美 夫

印刷所 吉 野 印 刷

定年延長の影響を想う

会 長 井 関 由 美 夫

今年の夏も、エアコンなしでは終日過ごせない酷暑になってしまいました。が、会員の皆様にはいかがお過ごしだったでしょうか。

さて、昨年度の会報でお伝えしましたが、定年延長も二年目を迎えました。今年三月末で六十歳の「役職定年」を迎えた校長先生は、更に今年度一年の勤務を経て、令和七年三月末に定年退職となります。心配な点は、定年延長で、退職校長会の入会者数がどのように変化するのか、であります。定年の前段階の「役職定年六十歳」で入会できますが、入会者が減少しないか、かねてより心配していました。今年度の結果では、北足立北部退職校長会のエリアの役職定年の校長先生は、十二名で、その内の八名が入会されました。入会率六七％と例年並みに近く、安堵しました。定年延長の影響がなかったということですが、しかし、埼玉県全体を見ますと、役職定年した人は、一六

九名ですが、入会者は、八四名で、入会率約五〇％となりました。例年の入会率が七五％前後で推移してきましたので異例のことです。あと一年間、様子を見ないと何とも言えませんが、定年延長を機に今後、入会者が激減するのではないかと深く憂慮するものであります。原因として、役職定年があるのかもしれないということが、定年まで数年間の勤務がありますので、校長職を終えた、という感慨が我々とは違うものがあるのではないかと、愚考します。今年度も入会の勧誘が始まりますが、多くの方が入会されることを願っています。

今年度も、役員・理事並びに各地区配布担当の皆様にご尽力いただき、会務を滞りなく進めることが出来ました。間もなく新年を迎えますが、会員の皆様には、健康に留意され御活躍される事を祈念申し上げ結びとします。

「上尾班と鴻巣班」

副会長 小 川 久 雄

上尾・桶川・伊奈地区と鴻巣・北本地区は、北足立北部の中で各々に独立の構成と相互関係を保ちながら結び付きの強い地域です。江戸時代は、上尾・桶川・北本・鴻巣宿と続き、明治以降は高崎線の開通と共に様々な変化がありました。上尾地区に高校が存在しない時に鴻巣には高校がありました。先輩が通った事を聞きました。歴史を見ると鴻巣には、源経基の言い伝えや勝願寺の話、人形町等の話。北本では蒲桜の話や牧野氏の歴史功績の伝承。桶川では、皇女和宮の話。上尾の遍照院では、「お玉」の話。伊奈の館と桶川の明星院の関係等、調べると歴史の楽しさが見つかります。

退職校長会は、こうした文化の伝承や歴史を児童生徒に伝えたり地域に広める力量と機会を持つてと思っています。意識の変化、状況の変化により私達一人一人に課題が投げかけられています。高齢化・退職の年次の変更・年金改革がありますが、現状を維持し次世代に繋ぐのが、現役員の使命と認識しています。

今、何をすることも物価高、人手不足、参加人数等が気になります。団塊の世代も後期高齢者になります。次の退職校長会を担う皆様に活動への参加や役員への立候補等を願いつつ結びとします。

熊との遭遇

副会長 佐 藤 豊 明

今年の七月上旬、雨の中を山仲間と鳩待峠から山ノ鼻に向かって、尾瀬ヶ原を歩いていました。生憎のひどい雨のため、木道を歩いていたのは私たちの三人だけでした。すると、四十メートル先に黒い影。一頭の熊を発見。こんな時には目をそらしてはいけない事を知っていた私たちは、前をしつかり向いて、そろりそろりと静かに後ずさりをしました。立ち上がった熊は、背丈が約一メートル五十七センチ前後、上を向いたり、横を向いたりしながら、静かに草むらから消えました。後から怖さがやってきて、足が震えました。すぐに管理事務所に行き連絡したところ、今年は頻繁に熊が出没しているそうです。特に天候が悪く、人が少ない時に現れるそうです。その後、熊は全国各地で現れて、人間に危害を加えるニュースが報道されました。この事から最近、卒業アルバム業者から、林間学校や修学旅行などの集団宿泊的行事の活動場所の変更や、内容の見直しなどの話を聞いています。

最後に熊から身を守るために学んだ事は、①クマ鈴やラジオなどの音の出る物を携帯する②声を出して存在を知らせる③危険なとき、クマスプレーを使って、顔をめがけて噴射する事です。

北足立北部だより

福田 安孝

◇北足立北部定期総会

令和六年度総会は、五月十一日(土)

あげお富士住建ホール(旧上尾市文化センター)にて、事業報告、決算報告、予算等が承認された。なお、懇親会については、検討の結果引き続き中止とした。

○正・副会長以下の役員

・顧問 秋池 功

・会長 井関由美夫

・副会長 小川久雄(上尾班)

佐藤豊明(鴻巣班)

・幹事(長) 福田安孝

(会計) 松田康秀

(庶務) 菅田 泉

(委員長) 中村敏男、奈良高男、三ツ木和代

(上尾班幹事長) 青木一弥

(鴻巣班幹事長) 須藤一幸

・監事 青木 清、米田久仁夫

・理事 各委員会名簿に記載

○第一回正・副会長・幹事会

○第一回理事会・委員会

六月一日(土)あげお富士住建ホール(旧上尾市文化センター)

議題

- 一 本年度の事業計画の具体化
- 二 予算執行について
- 三 各委員会の活動内容と分担等

○第二回正・副会長・幹事会

九月七日(土)あげお富士住建ホール(旧上尾市文化センター)

議題一 各班退職校長会からの報告

二 委員会の活動の進捗状況等

○教育推進委員会

(長) 中村敏男・曾我部延孝・矢野誠二・田代孝治・高荷國男・加藤修・小川隆二

(彩の国教育の日)「現職・退職校長研究協議会」十月二十九日(火)の開催に向け現職との打ち合わせ・開催計画づくり・役割分担・発表者依頼・開催案内の配付等を行った。

○懇親旅行委員会

(長) 奈良高男・山口秀之助・茂木京子・大塚明・森陽一郎・長谷川洋・靄間和男

本年度は十月二十日(日)千葉県佐倉市方面日帰りの旅行を計画した。この旅行に向け計画・下見・業者の手配等から案内の配付・参加者(二十八名予定)の確認等を行った。

○会報委員会

(長) 三ツ木和代・堀越洋子・飯塚睦・落合啓志・志村好文・青木慶一・加藤幸弘

会員だより第四十六号の発行に向けて企画・原稿執筆依頼の配付・編集等を行った。

○埼玉県退職校長会総会

六月七日(金)嵐山町の国立女性会館で開催された総会に参加した。

上尾班だより

青木 一 弥

○定期総会

四月十三日、あげお富士住建ホール(旧上尾市文化センター)において定期総会を開催。上尾市教育委員会教育長西倉剛様をご来賓としてお迎えし、令和六年度の事業計画等、すべての議案が慎重審議の上、承認された。議長は堀越洋子氏。

○令和六年度事業状況

①新会員は二名。会員総計は百十五名。(十月一日現在)

②会員だより(あおい)第三十一号七月に発行した。令和七年三月に会報三十二号を発行予定。

③現職・退職校長懇話会

七月二十九日、上尾市内小・中学校校長と班内退職校長による懇話会が上尾公民館において開催された。本年度は上尾班小川久雄会長による基調提案に続き、いじめ等の人権問題や働き方改革等、今日的な教育課題について、活発な意見交換がなされた。

④退職校長名簿の配付

学校を様々な観点から支援することを目指すとして、通学区域在住の退職校長名簿を夏季休業中に班内小・中学校校長に配付した。

⑤同好会活動

彩光会(写真同好会)の撮影会や作品展示会等、生きがいあふれる活動が行われている。

鴻巣班だより

須藤 一 幸

○定期総会

四月十三日(土)北本市西部公民館を会場に、北本市教育委員会教育長種子修一様をご来賓としてお迎えし会員二十七名の参加で開催。前年度の事業・決算・監査報告や新年度の役員案件・事業計画・予算案などが審議された。決算報告書に一部不明な点が指摘され後日再報告となったが、それも含めて議案はすべて承認された。新会員は六名で、会員総数は百二十五名となった。

○令和六年度の事業状況

①第一回役員会

六月十五日(土)北本市西部公民館にて開催。県及び北部の動向が報告された。また班研修会の内容等が本年度担当の吹上地区から提案された。

②研修会

九月十八日(水)班員の研修会が埼玉県防災学習センターで開催された。内容は「防災意識を高める研修会」で十三名が参加した。残暑の厳しい日だったが館内は涼しくとても快適だった。スタッフの案内により「地震体験」「煙体験」「消火体験」などの疑似体験を通して自分自身の守りや災害への備えを学ぶと共に防災意識を高めることができた。その後、レストラン「とき」に場所を移し食事が行われ十五名が参加し会員同士の交流を深めた。